

練馬区の 福祉のまちづくりに関する現状と課題

1 基礎数値 ... P2

2 現状と課題（現行計画の施策を基準にした整理）

（1）ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進める ... P12

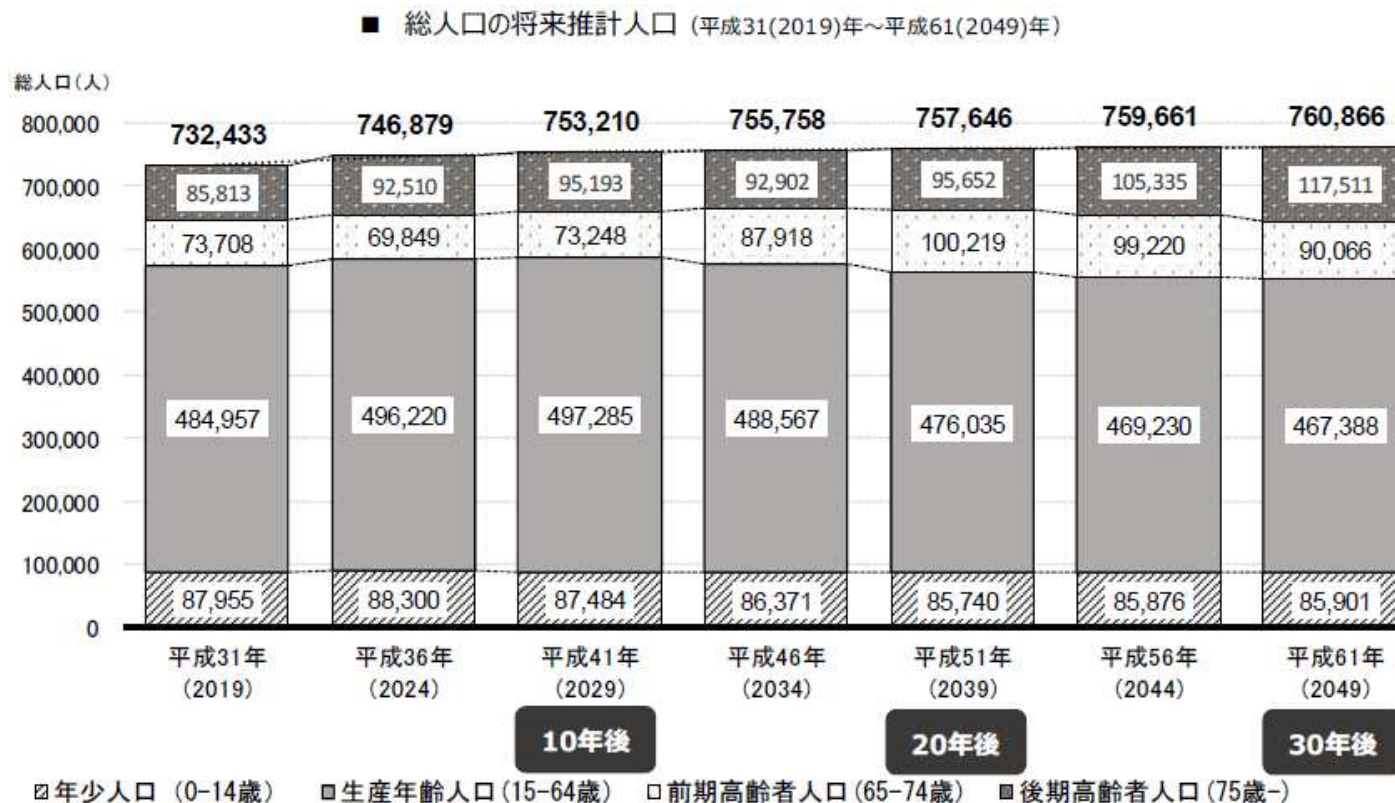
（2）多様な人の社会参加に対する理解を促進する ... P19

1 基礎数値

【練馬区の将来推計人口】(1) 総人口の推移

総人口は、30年後の平成61(2049)年に約76万1,000人に達し、その後、減少に転じる見込みです。平成42年から減少が見込まれる日本人人口を、外国人人口が補う形で30年間増加を続け、その後は緩やかに減少していくことが予測されます。

図1



資料：第2次みどりの風吹くまちビジョン アクションプラン 年度別取組計画素案 (平成31年2月)

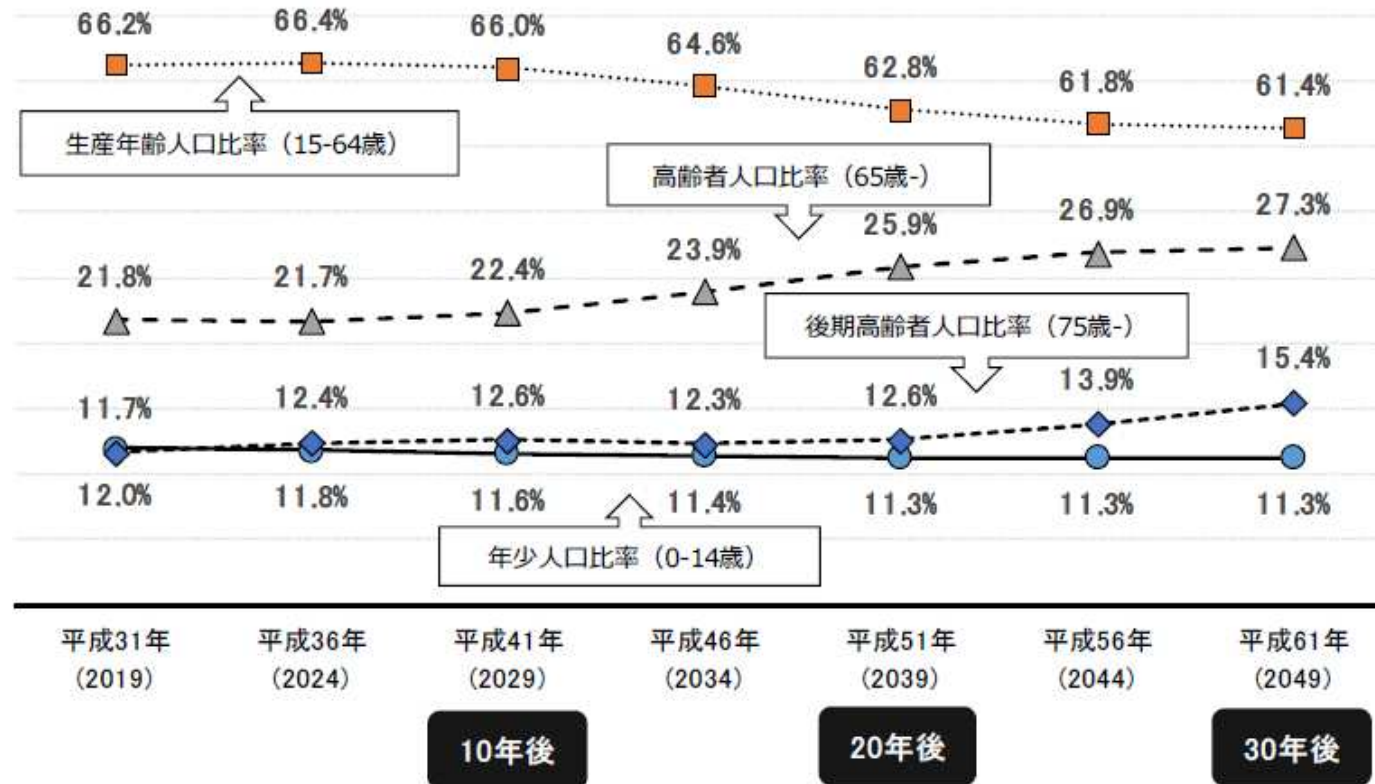
1 基礎数値

【練馬区の将来推計人口】(2) 総人口の年齢構成比の推移

年少人口比率(○)、生産年齢人口比率()が低下し、高齢者人口比率()、後期高齢者人口比率()の比率が上昇していくことが分かります。

■ 年齢四区分比率の将来推移 (平成31(2019)年～平成61(2049)年)

図2



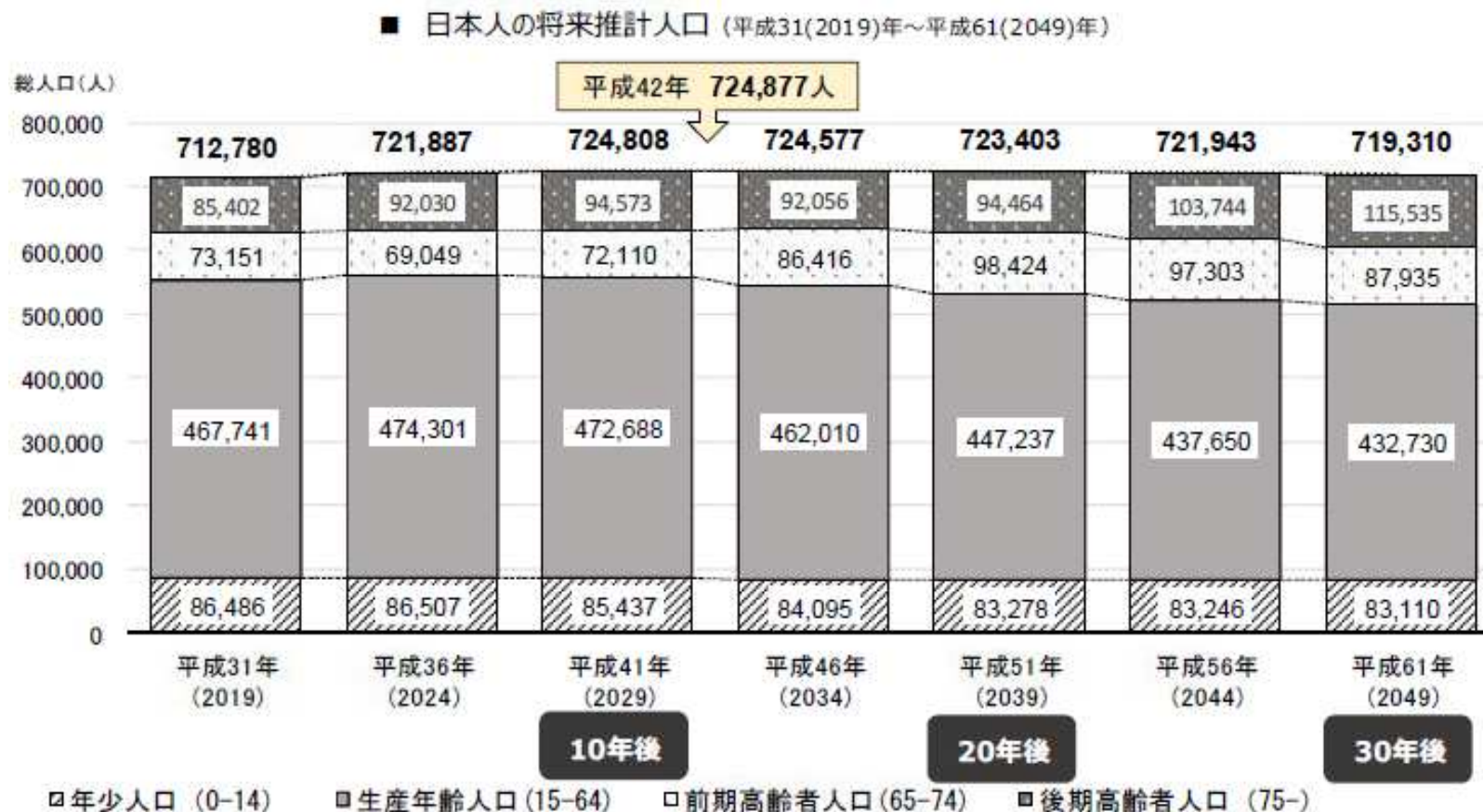
資料：第2次みどりの風吹くまちビジョン アクションプラン 年度別取組計画素案（平成31年2月）

1 基礎数値

【練馬区の将来推計人口】(3) 日本人人口の推移

日本人の人口は、11年後の平成42(2030)年頃に約72万5,000人に達し、その後、ゆるやかに減少していくことが予測されます。

図3



資料：第2次みどりの風吹くまちビジョン アクションプラン 年度別取組計画素案 (平成31年2月)

1 基礎数値

【練馬区の将来推計人口】(4) 外国人人口の推移

外国人の人口は、30年後の平成61(2049)年に約4万2,000人に達し、その後も増加していくことが予測されます。

図4



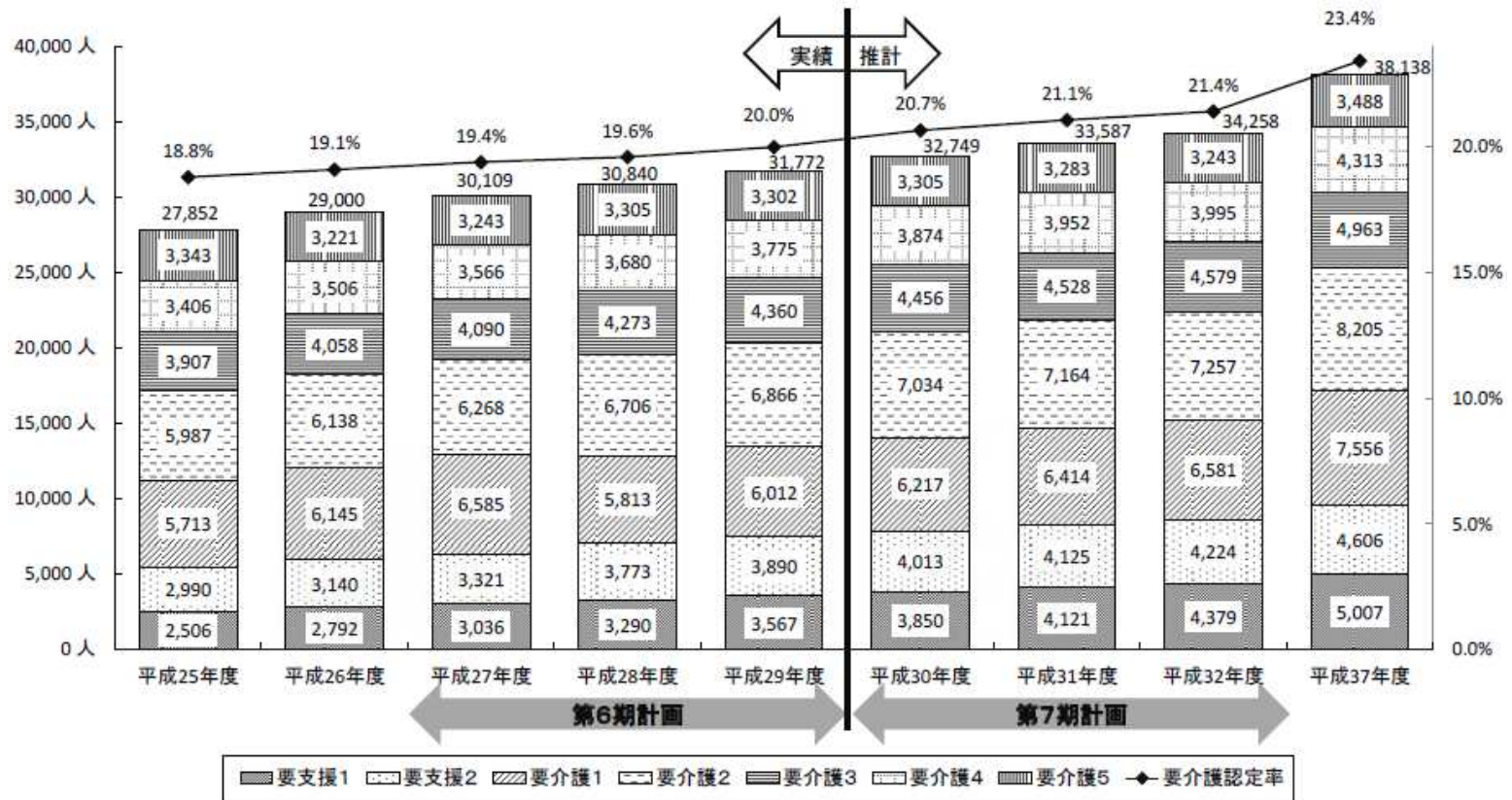
資料：第2次みどりの風吹くまちビジョン アクションプラン 年度別取組計画素案 (平成31年2月)

1 基礎数値

【練馬区の高齢者】(1) 要介護認定者の推移 (第1号被保険者)

要介護認定者は増加し、要介護認定率も上昇する見込みです。要介護認定者のうち、何らかの認知症の症状がある方は8割を占めており、半数の方が見守り等の日常生活上の支援を必要とする状況です。

図5



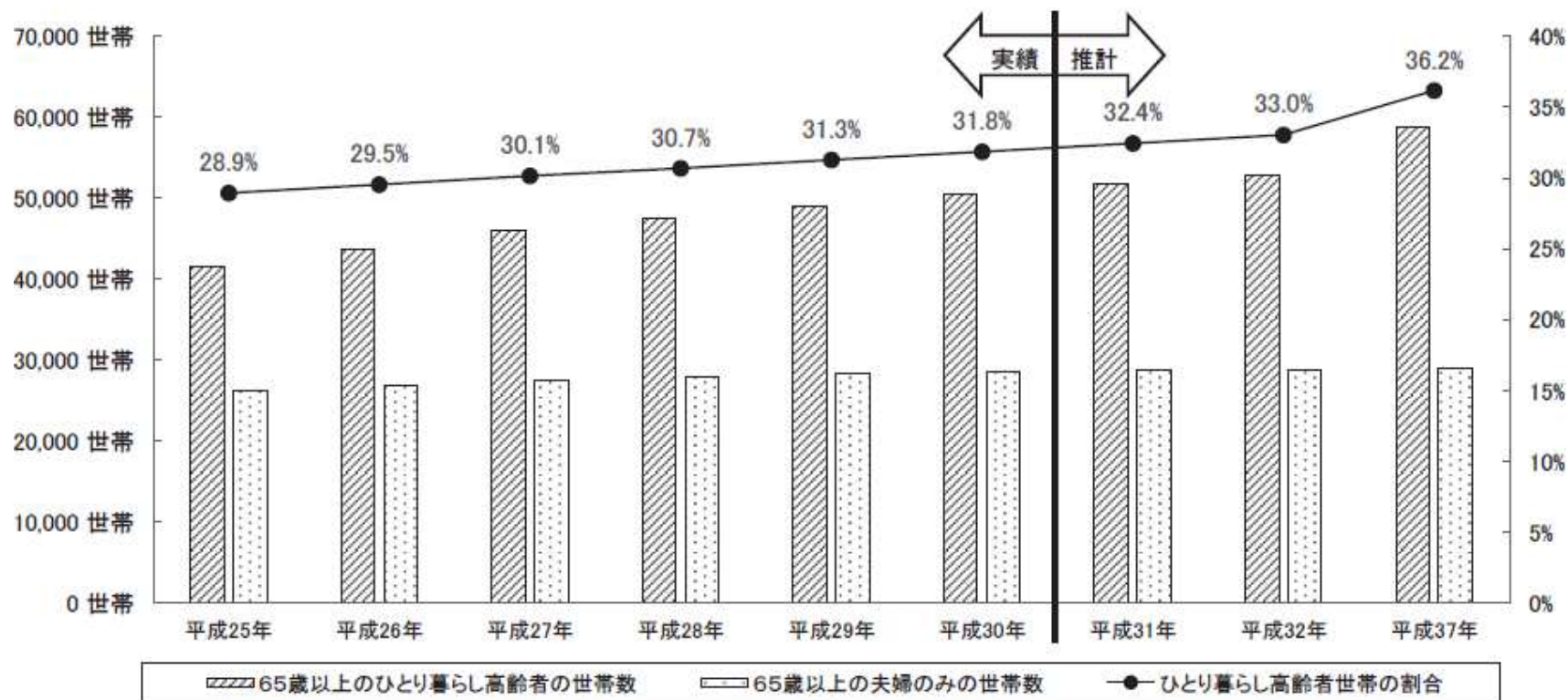
資料：第7期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成30～32年度）

1 基礎数値

【練馬区の高齢者】(2) 高齢者世帯構成の推移

平成37年(2025年)には、高齢者の夫婦のみ世帯がほぼ横ばいであるのに対し、ひとり暮らし高齢者は増加し、高齢者の3人に1人はひとり暮らし高齢者となる見込みです。

図6



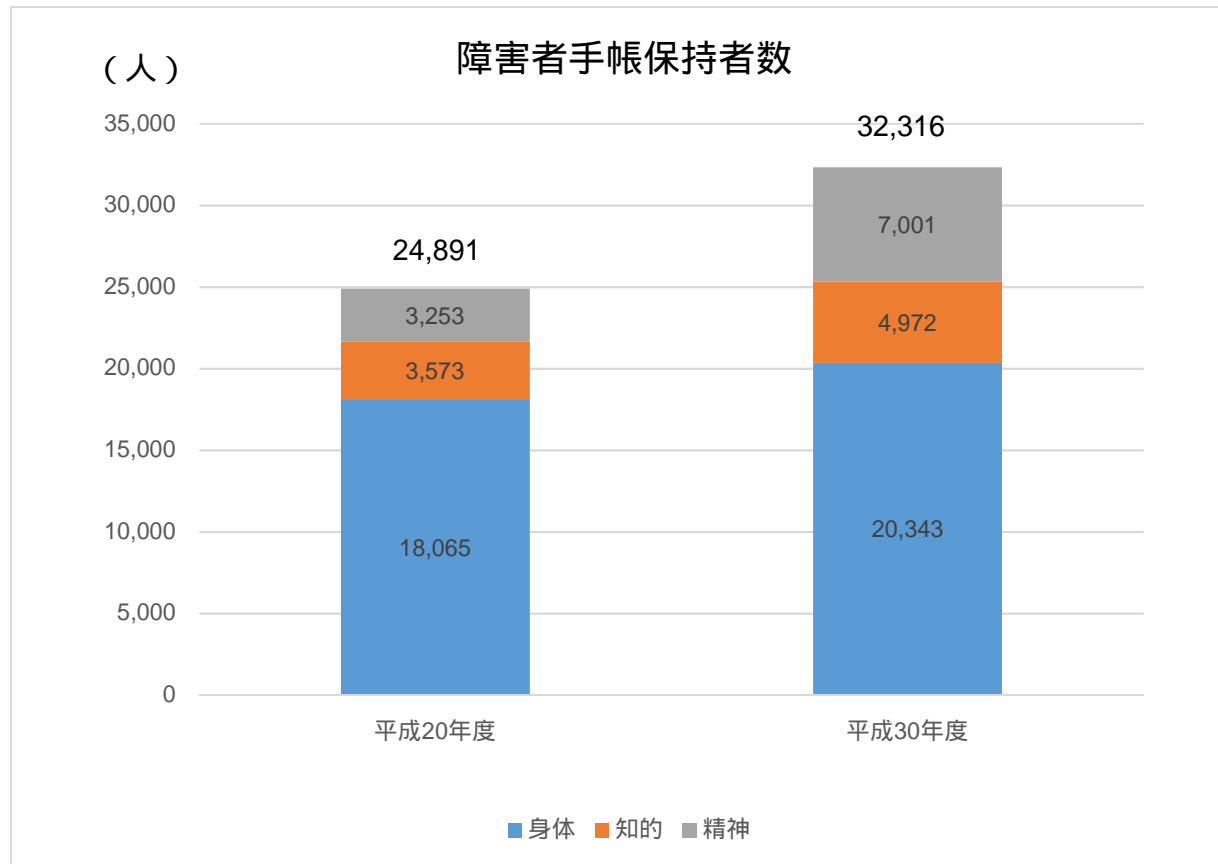
資料：第7期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(平成30~32年度)

1 基礎数値

【練馬区の障害者】手帳保持者数・手帳保持者の状況

障害者の範囲拡大、高齢化社会、医療発展などにより、手帳保持者数が増加しています。特に、精神障害者の占める割合が増加しています。

図7

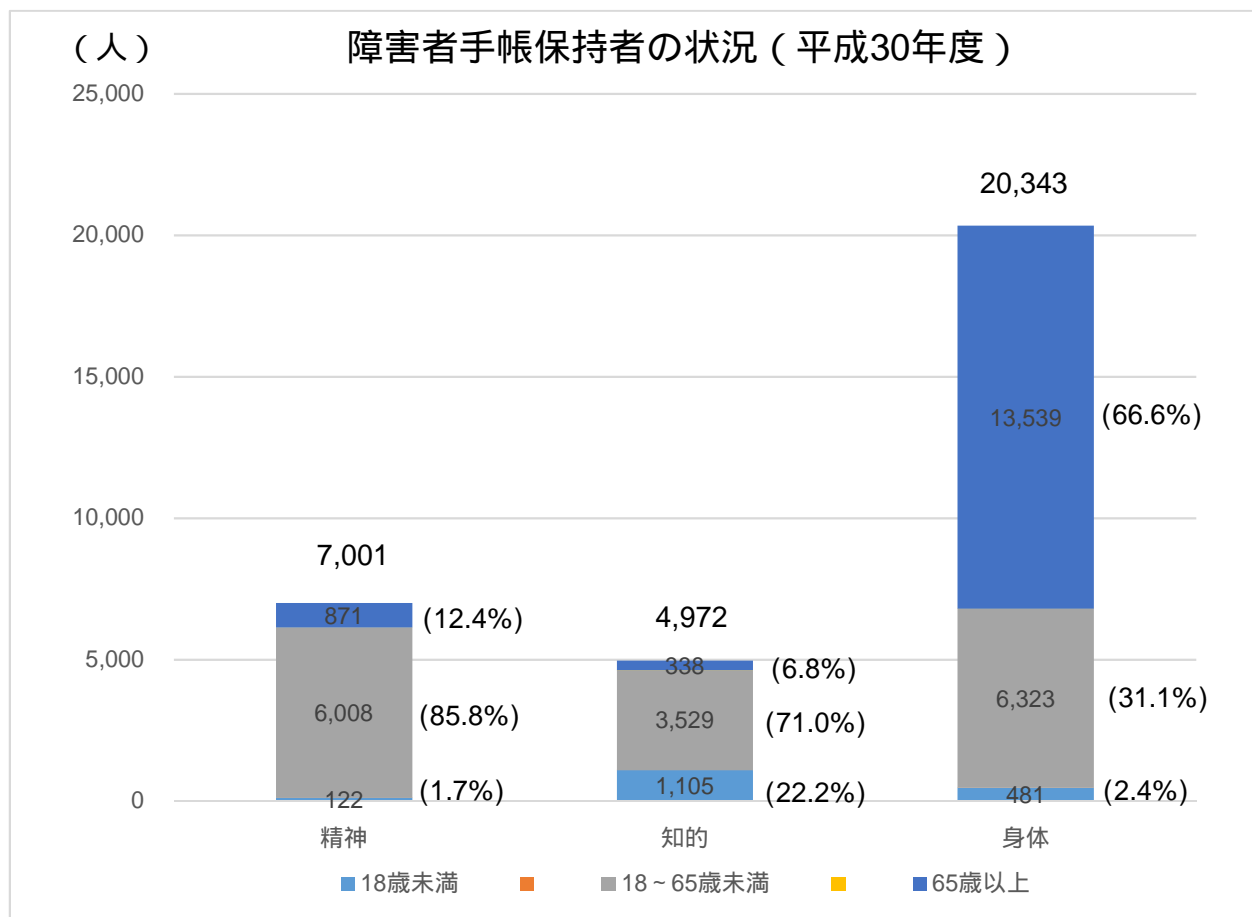


資料：障害者計画・第三期障害福祉計画（平成24～26年度）手帳所持者調査をもとに作成

1 基礎数値

また、身体障害者手帳保持者の7割近くが65歳以上の方です。

図8



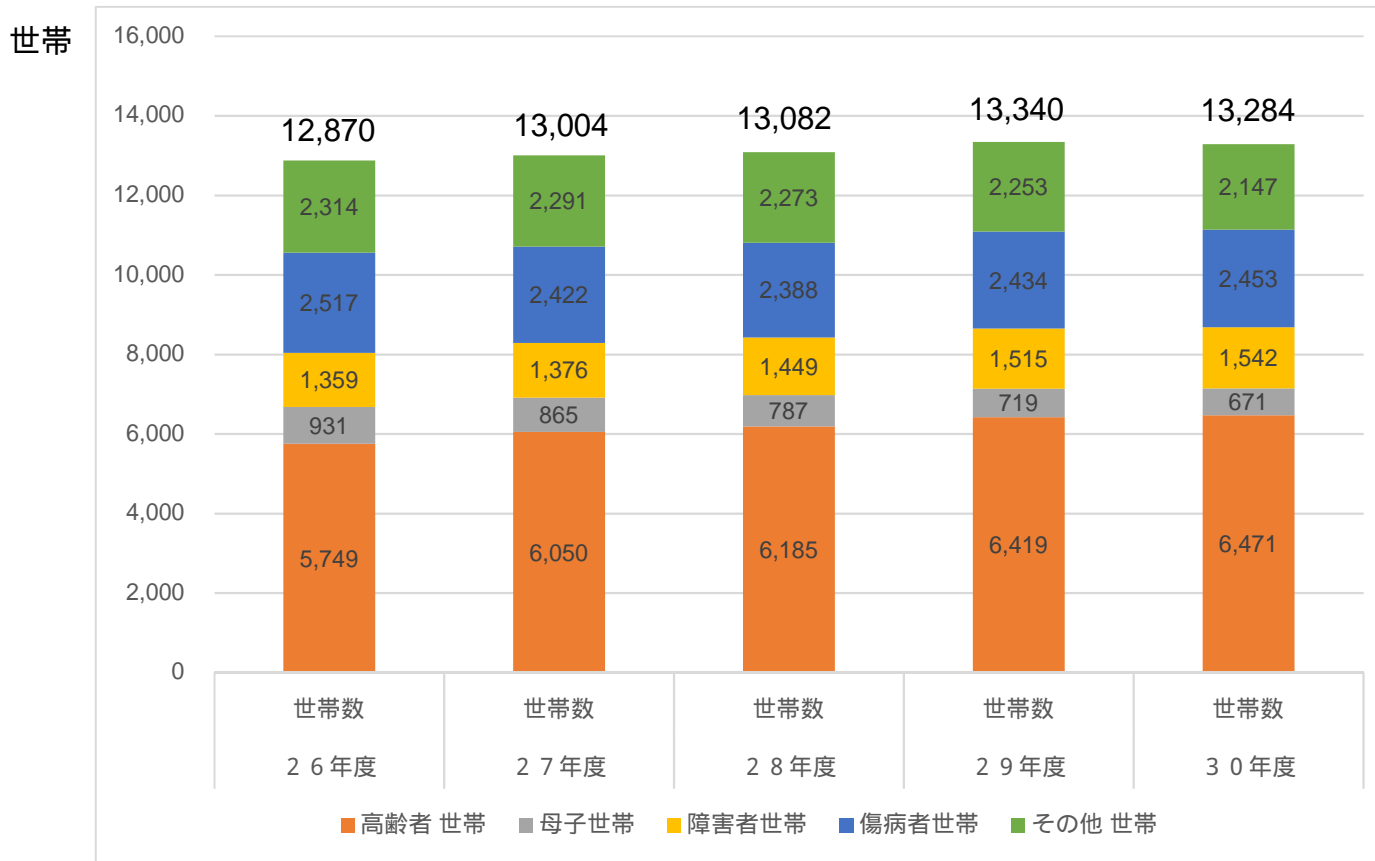
資料：手帳所持者調査をもとに作成

1 基礎数値

【練馬区的生活保護】被保護世帯の世帯類型別構成の推移

過去5年間の被保護世帯数は、僅かに増加しています。中でも、高齢者世帯および障害者世帯数が増加しています。

図9



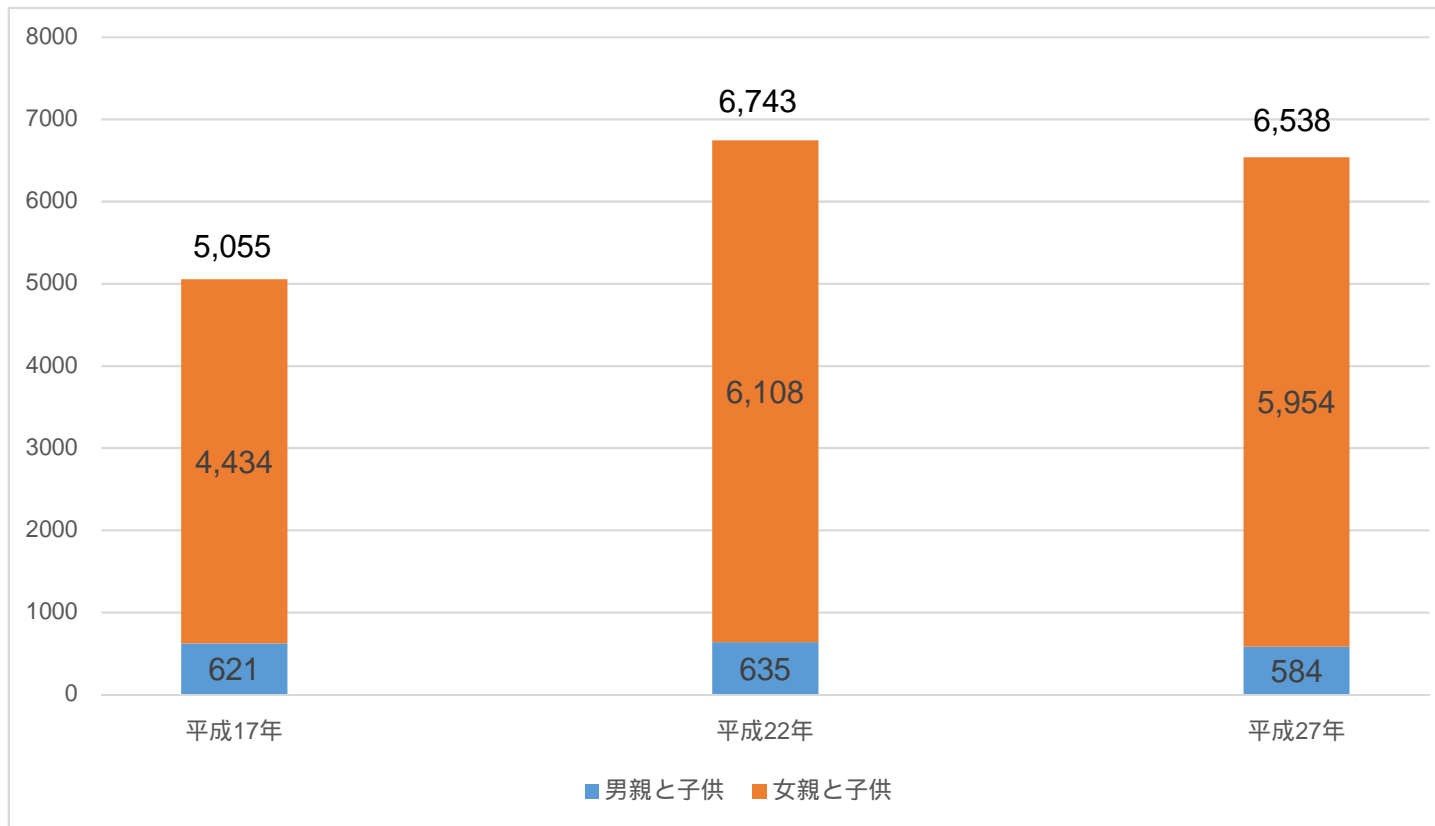
資料：被保護者調査（月別概要）をもとに作成

1 基礎数値

【練馬区のひとり親】18歳未満の家族のいる世帯数の推移

ひとり親世帯は、平成17年から22年にかけて1,688世帯増加したものの、22年から27年にかけては205世帯減少しました。

図10 世帯



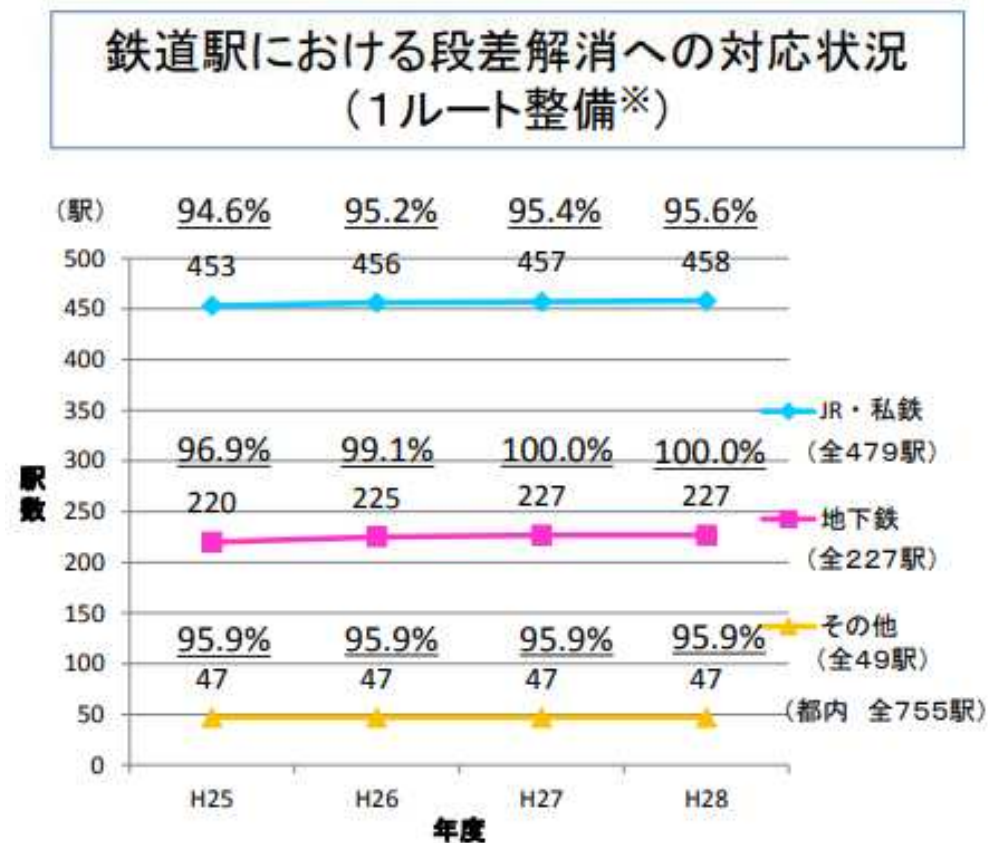
資料：国勢調査（平成17、22、27年）をもとに作成

2 現状と課題 (1) ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進める

【鉄道のバリアフリー化】鉄道駅における段差解消への対応状況

都内において、駅出入口からホームまで段差なく移動できる経路（1ルート整備）は、ほぼ完了しています。練馬区内では、平成23年度に全ての鉄道駅で1ルート確保が達成されています。

図 11



※1ルート整備：駅出入口からホームまで段差なく移動できる経路

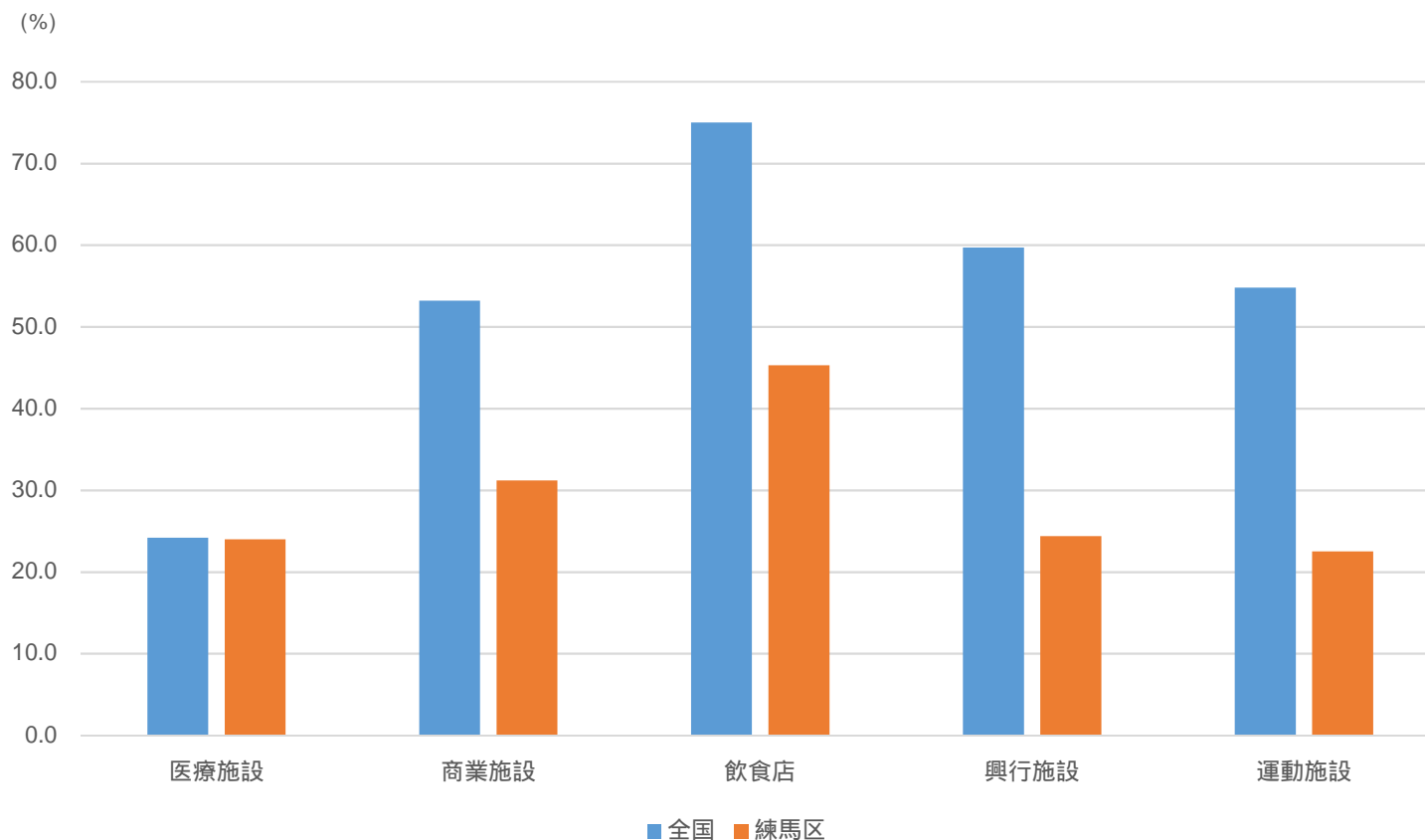
資料：東京都見える化改革報告書「交通政策」(平成30年10月)

2 現状と課題（1）ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進める

【建築物のバリアフリー化】（1）バリアフリーが進んでいないと考える人の割合

商業施設や飲食店について進んでいないと考える人の割合が、区内では3割～半数近くとなっています。全国と比較すると、医療施設以外、区内でバリアフリーが進んでいないと考える人の割合は低い状況です。

図 12



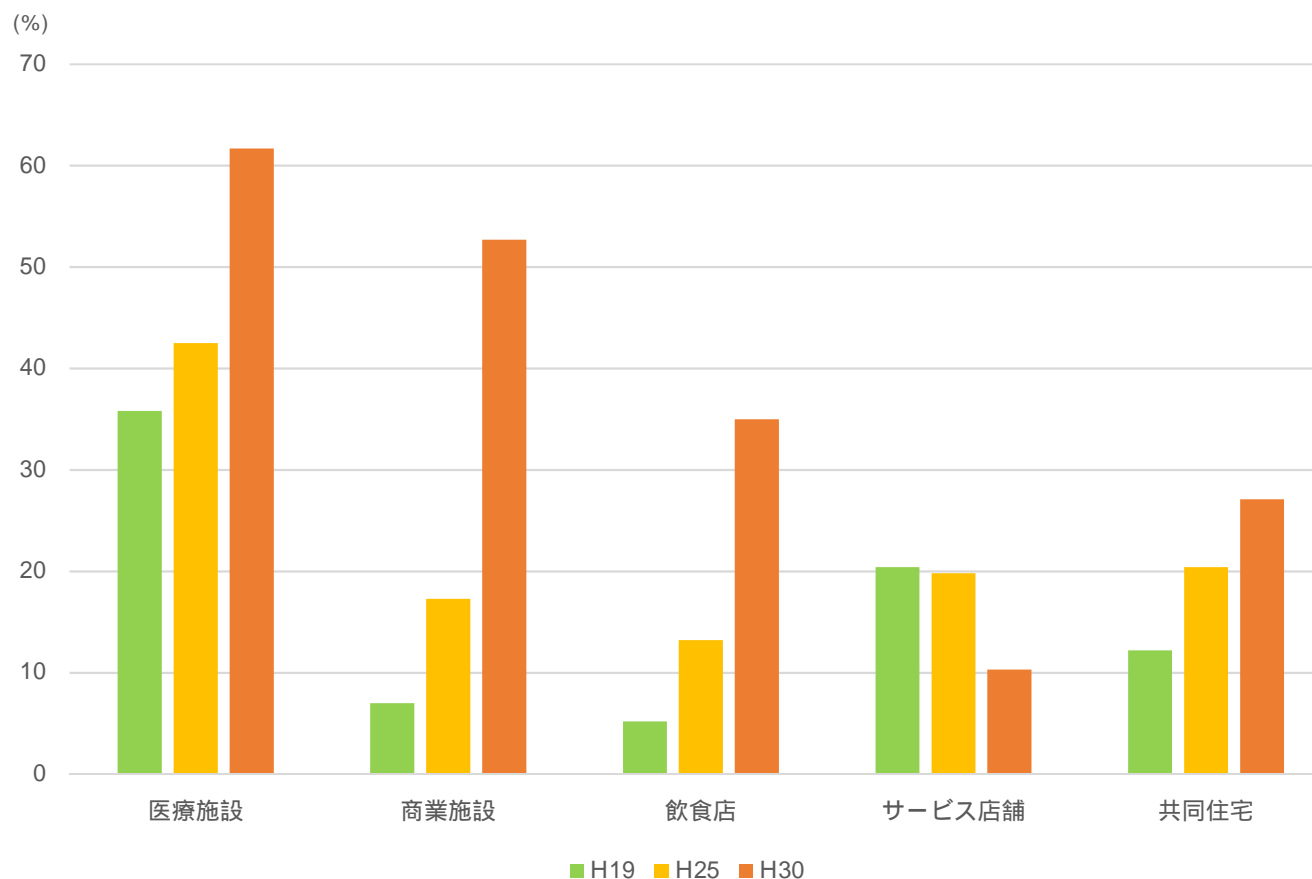
参考：内閣府意識調査（平成30年）、区民意識意向調査（平成30年度）

2 現状と課題 (1) ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進める

【建築物のバリアフリー化】(2) 重点的にバリアフリー化に取り組むべき建物

医療施設だけでなく、商業施設や飲食店のバリアフリー化への期待が高まっています。

図 13



サービス店舗は、H19,H25 は銀行・郵便局を例示、H30 は理髪店・旅行代理店を例示

参考：区民意識意向調査（平成 19、25、30 年度）

2 現状と課題（１）ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進める

【外出しやすい環境づくり】（１）駅から公共施設へのルートに望むこと

属性により様々なニーズがあり、ハード面の整備だけでなく、案内のわかりやすさや人による声かけ、休憩場所の確保なども、外出しやすさにつながっています。

表 1

	障害者	%
第 1 位	案内板や地図が 分かりやすい	57.1
第 2 位	歩道などが広く ストレスなく すれ違える	57.1
第 3 位	まちの人やスタッフが親 切に声をかけてくれる	38.1

子育て世代	%
歩道などが広く ストレスなく すれ違える	70.4
でこぼこや段差がない	55.6
車いすやベビーカーで使 いやすいトイレがある	38.1

高齢者 (75 歳以上)	%
疲れたら途中で 休憩できる	57.1
でこぼこや段差がない	52.4
公共施設を快適に使える	38.1

参考：区役所来庁者によるシール投票（平成 29 年度）

2 現状と課題（1）ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進める

【外出しやすい環境づくり】（2）優先的に進めていくべき取組

ユーザーの意見をバリアフリー整備に反映させる取組については、約半数が優先的に進めていくべきと回答しています。

表 2

	地域福祉活動を行う団体の代表者等	%
第1位	高齢者や障害者、子育て層などのユーザーの意見をバリアフリー整備に反映させる取組	46.8
第2位	駅から主要な公共施設までのアクセスルートを連続的に改善する取組	29.5
第3位	だれもが外出しやすい環境づくりに関する区の実施を、わかりやすくまとめて情報発信する取組	29.5

	地域福祉活動を行う個人	%
第1位	高齢者や障害者、子育て層などのユーザーの意見をバリアフリー整備に反映させる取組	50.4
第2位	若者や子どもたちが、障害の有無にかかわらず、一緒にまちづくりについて考え、意見を発信する取組	34.6
第3位	だれもが外出しやすい環境づくりに関する区の実施を、わかりやすくまとめて情報発信する取組	27.8

参考：練馬区の地域福祉を推進するためのアンケート（平成31年2月）

2 現状と課題（１）ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進める

【練馬区の主な事業】

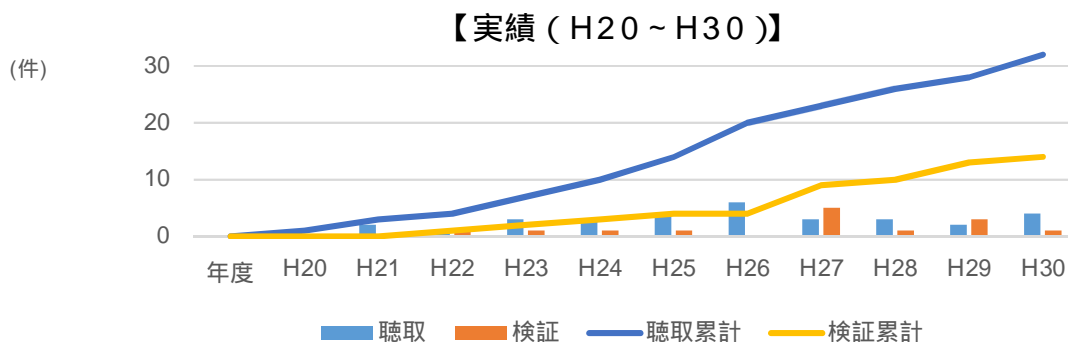
1 駅のバリアフリー化

区内にある鉄道駅のうち、東京メトロおよび都営地下鉄の全ての駅と、西武有楽町線小竹向原駅にはホームドアを設置済み。今年度末までには、西武池袋線練馬駅にホームドアが設置される予定。また、ホームドアが設置されている駅を除いた全ての駅に、平成29年度、内方線付き点状ブロック（ホームの内側を表示する線状突起がついている点状ブロック）の設置が完了。

2 公共施設のバリアフリー化

練馬区福祉のまちづくり推進条例に基づく整備を行うとともに、一定規模以上の区立施設の建築および区立公園の新設等の際には、バリアフリーに関する区民意見を聴取し、設計に反映させることにより、だれもが使いやすい施設等の整備を目指している。

図 14



3 駅と公共施設を結ぶ経路のバリアフリー化

主要公共施設と駅を結び、より安心・快適に利用できる経路を、今年3月『アクセスルート』として指定（主要な施設（区役所など）12施設を選定）。今後、視覚障害者誘導用ブロックや誘導サインなどの整備を予定。

4 民間施設へのバリアフリー整備助成

店舗や診療所、共同住宅等のバリアフリー整備費用を一部を助成。

（例）スロープ設置、洋式便器への改修、自動扉への改修 など

2 現状と課題（１）ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを進める

【練馬区的主要課題】

1 区内の全ての鉄道駅では、バリアフリー化された１ルート確保や、内方線付き点状ブロック等の転落防止施設の整備が完了している。しかし、駅の構造上１ルートだけでは利便性を欠く駅も存在しており、また、更なる安全性の向上も求められている。

駅の２ルート目のバリアフリー化された経路や、更なるホームドアの整備が必要

2 様々な利用者が円滑に利用できる整備を一層進めるためには、整備基準に基づく整備に加えて、当事者の意見を取り入れた設計等が重要である。

高齢者、障害者、乳幼児連れの視点を、区立施設や区立公園等の整備や維持管理に生かす取組を引き続き行うことが必要

3 公共交通施設、建築物等の個々のバリアフリー化は着実に進展しているが、駅と施設間を結ぶ経路の連続的な整備等の推進が求められている。

事業者や区民との連携・協力を一層強化し、ハード、ソフトの両面から、駅周辺地域のバリアフリー化を進めていくことが必要

4 商業施設や飲食店のバリアフリー化について、区民の期待が高まっているが、十分に進んでいない。

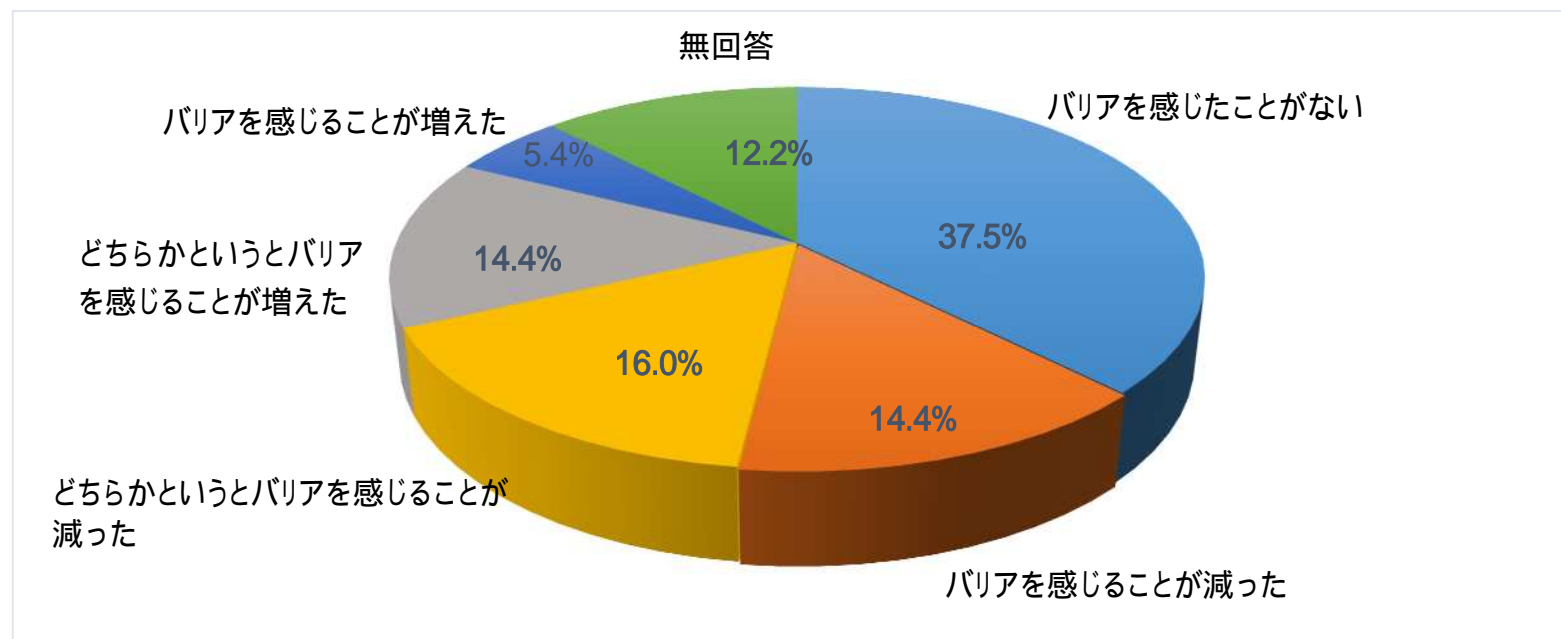
生活に密接した中小規模の店舗のバリアフリー化を促進するため、事業者の主体的な取組を促す方策の検討が必要

2 現状と課題（2）多様な人の社会参加に対する理解を促進する

建物や駅などの環境面（バリア）による外出しにくさや、以前との変化

「バリアを感じたことがない」が最も高く 37.5%、「感じるものが減った」（「感じるものが減った」と「どちらかというが減った」の合計）は 30.4%と「感じるものが増えた」（「感じるものが増えた」と「どちらかというが増えた」の合計）19.8%を上回っています。

図 15



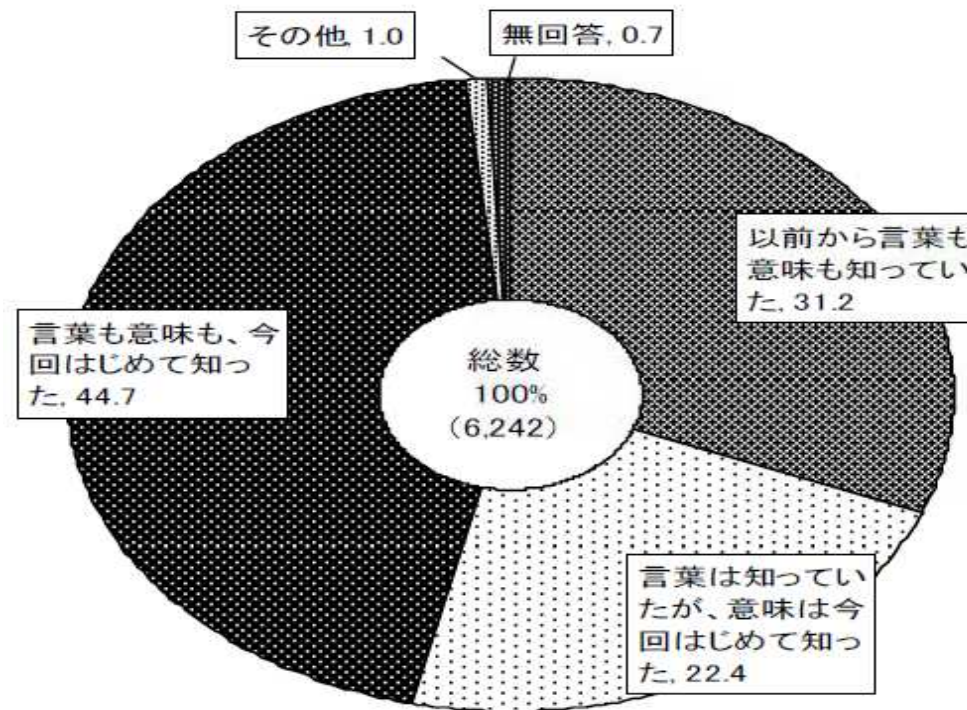
資料：練馬区の地域福祉を推進するためのアンケート（平成 31 年 2 月）

2 現状と課題(2) 多様な人の社会参加に対する理解を促進する

ユニバーサルデザインの認知度

意味を知らない人の割合が約67%であり、認知度が低い状態です。

図 16

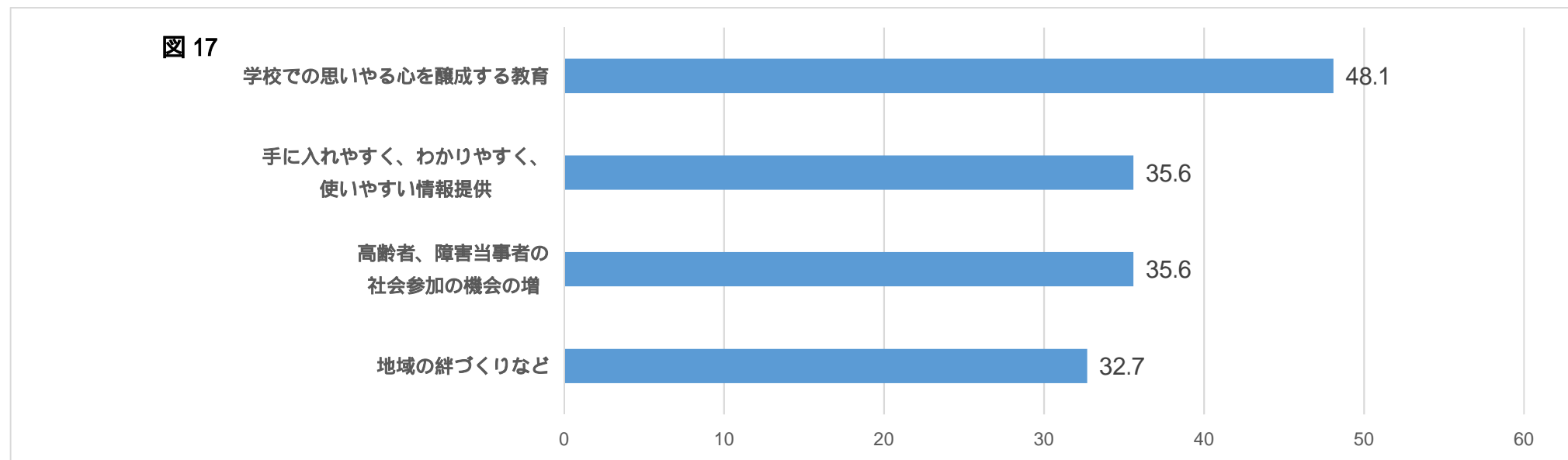


資料：東京都福祉のまちづくり推進計画
(平成26～30年度)

2 現状と課題（2）多様な人の社会参加に対する理解を促進する

福祉のまちづくりには、「心の教育」や「情報提供」が必要

ソフト面における福祉のまちづくりを進めていくためには、「学校での思いやる心を醸成する教育」(48.1%)や「手に入れやすく、わかりやすく、使いやすい情報提供」(35.6%)が必要だと考える人が多く、子供たちへの心の教育と身近な情報提供の構築が求められています。



資料：練馬区の地域福祉を推進するためのアンケート（平成 31 年 2 月）

2 現状と課題（2）多様な人の社会参加に対する理解を促進する

【練馬区の主な事業】

1 ユニバーサルデザイン推進ひろば

小学生ユニバーサルデザイン体験教室

【実績】（学校編）3回・250名（学校外編）2回・91名

小学生ユニバーサルデザイン体験教室マニュアルの発行（教員向け）

【実績】全区立小学校へ配付

普及・啓発アトリウム展示「ユニバーサルデザイン展」

【実績】8月16日～23日 来場者1,920名

2 ねりまユニバーサルフェス

【来場者数】みんなのUDパーク約1,500名（29年度）

約1,500名（30年度）

3 多様な人との相互理解を図るための小冊子の作成

【実績】相互理解のための小冊子作成にかかるワークショップ（30年度計3回）

配慮・対応編4,000部発行（30年度）

4 地図情報と連携したバリアフリー情報の発信

【実績】掲載施設数 233件（平成31年4月現在）

アクセス数 23,515件（平成30年4月～平成31年1月）

5 やさしいまち通信の発行

【実績】年4回（4・7・10・1月）・各15,000部発行

平成30年度

2 現状と課題（2）多様な人の社会参加に対する理解を促進する

【練馬区的主要課題】

- 1 約67%の人がユニバーサルデザインの意味を知らない状況にある。障害者や高齢者、子ども、外国人など、多様な人の立場や心身の状況によりバリアがあることに気づき、理解しようと努め、互いの個性を認め合える地域づくりが重要である。
 - ・多様な人のバリアを理解し、思いやりと助けあいによって、だれもが快適に生活できるよう「心のバリアフリー」を推進することが必要
 - ・さまざまな人が、参加・交流し、ユニバーサルデザインの理念を学ぶことができる場が必要

- 2 ハード面でのバリアについては、「感じたことがない」や“感じるものが減った”(「感じるものが減った」と「どちらかというが減った」の合計)を合わせると67.9%と、バリアの解消が着実に進展してきているが、ハード面の整備だけでなく、「思いやりの心を育てる教育」、「情報のバリアフリーの充実」等のソフト面の取り組みを実践していく必要がある。
 - ・次世代を担う小学生向けに、ユニバーサルデザインの理解を深める教育が必要
 - ・障害のある方、高齢者を含むすべての人々が必要な情報を容易に入手し、理解することができるよう、さまざまな「情報」のユニバーサルデザイン化が必要